



皆さん、自分のお墓や葬儀のことを考えていますか？私自身ご長寿というほどまで生きながらえるかどうかはわからないが、確かに齢90も過ぎれば、周りに知り合いも友だちも居なくなる。名士でもないんだからお葬式は家族葬で充分だ。

身辺の整理や物の処分にも励まねばならない終活年齢にもなったが、衣替えのときに、気持ち数枚の衣料を捨てるだけにとどまり、なかなか進まない。せめて、新たに物を買うことは控えようとも思うが、それでは「生産→消費」という経済活動に水を差すことにもなるし。と言いながら、結局、片付けは面倒だからサボってるだけです。

自分が死んだときのお葬式は別にどんな形でも構わない。残った家族で好きなようにしてくれたらいい。海に散骨してほしいなどと、しち面倒くさいことは申しません。散骨や樹木葬は「海空に還る、桜の木の下に眠る」というイメージ先行で最近増えているが、人の骨を海に捨てるというのも法律的にはグレーゾーンで、自治体によっては禁止されているところもある。樹木葬だって、銘板の下のお骨を埋める場所は、大きなドラム缶が埋め込んであって、土に還るわけでもなさそう。海や土に撒くには、まず、遺骨を全部砕いて粉灰のようにしなくちゃならない。粉骨してくれる業者もあるらしい。いやはや、ふつうにお墓でいいです。平本家の見知らぬご先祖や姑さんといっしょでも別に構わないです(笑)

【墓地埋葬法＝遺骨を埋められるのは墓地霊園、埋葬できる者は宗教法人か地方自治体】

6年ほど前に義母が亡くなったとき、うちは島根県にあったお墓を墓終いして枚方の霊園に改葬した。義父は松江出身なので、お墓は松江城の近くの風光明媚な場所のお寺にあった。結婚以来30年以上にわたり、毎年お墓参りを兼ねて、松江や出雲周辺を観て回った

が、それももうおしまい。もつとも、もう行けるところは行き尽くして訪れる場所もなくなったけど。

日本の人口が都市部に集中してしまった現在、田舎の墓を現住地の近くの霊園に持ってくる改葬も増えている。この改葬という作業もなかなかたいへんで、墓地埋葬法という法律に基づき、市役所や寺の手続きから挨拶、墓石の処分やらで夫も何度か松江に通った。元のお寺からすれば、檀家が減るので快く了解してもらえないケースもあるようだ。

きちんと改葬されるならまだしも、あちこちで無縁墓も増加している。実家のお墓は駅近の京阪電車の高架からも見下ろせる小規模な墓地にあるが、昔からの地元だけのお墓なのに、所有者の居所不明で張り紙がしてある墓がちらほら散在する。田舎のお墓なら、跡を継ぐ縁者が都会に出てしまえば、それっきりになってしまうことが多いだろう。お墓どころか、電車内の落とし物の骨つぼ、あれは捨てるに忍びなくてわざと置き忘れることがほとんどだそう。遺失物として警察に預けられたら、あとは、どこかのお寺に無縁仏として祀ってもらえるという心情である。

少子化が進み、ましてや自分に子どもがいなければ、お墓の管理も滞ることになるし、たとえ子どもがいても、墓の面倒をかけたくないということから、お墓を作らないケースも増えてきた。大阪天王寺の一心寺は檀家を持たない特異なお寺で昔から利用者が多い。大勢の人の遺骨で作る骨仏は2017年に14期目が形成されるそう。また、お墓の掃除など不要の永代供養のロッカー式納骨堂も増えている。「何のために墓を作り、供養するのか。自分につながる先祖に感謝する」というお墓の趣旨に沿ってみると、やはりお墓は必要だなと思う。おざなりだった墓参もこれからは少し心を込めてお参りしたい。

増え続ける孤独死、直送形式の葬儀、墓問題、本来の仏教の教えとは…あれこれ興味深い話が載っていて参考になった。

『無葬社会』 鵜飼秀穂 日経BP社